

多 度 津 町 経 済 動 向 調 査

《第1四半期(2018年4-6月) 調査結果》

1. 調査期間 2018年6月6日～19日

2. 調査対象 会員42企業に調査票配布(回収31企業 回収率73.8%)

	製造	建設	卸売	小売	サービス
調査対象	12	9	4	8	9
有効回答	10	6	3	6	6

3. 調査項目 今期(18年4～6月)を基準に前年同期比、来期予測を今期比にて業況・売上高・採算・仕入単価・従業員・資金繰りの項目について調査。

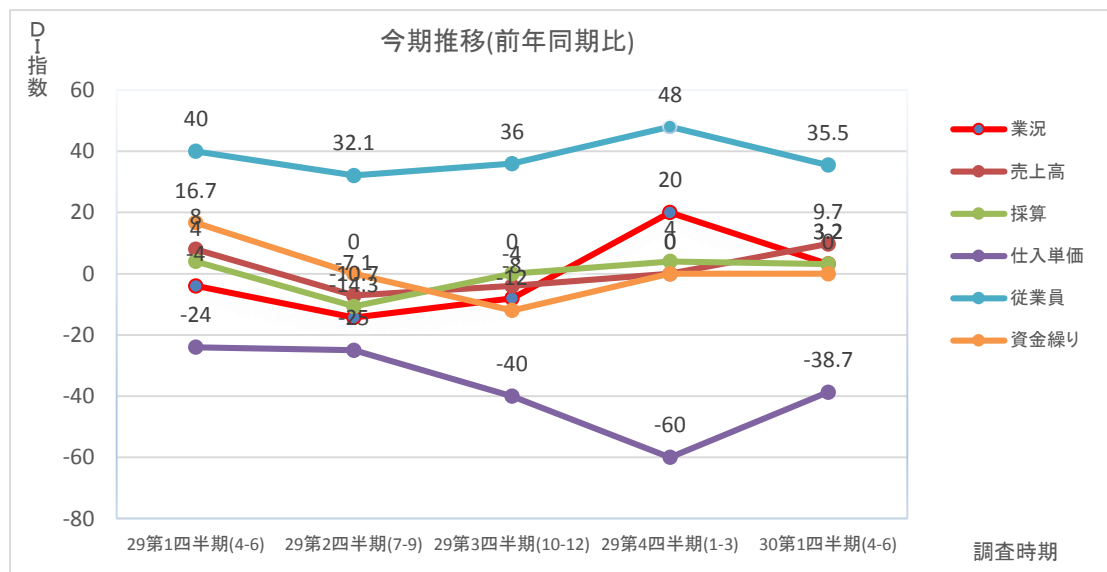
※DI指数は、景況判断状況を表すもので増加・好転などの回答割合から減少、悪化などの回答割合を差し引きし、ゼロを基準としてプラス値で景気の上向き、マイナス値で景気の下向きを表す。

4. 全産業(DI指数分析)

業況3期ぶりに悪化し、先行き(来期)も、悪化の見込みが増加。

業況DI6.8(前期比13.2ポイント悪化↓)、売上高DI9.7(前期比9.7ポイント改善↑)、採算DI3.2(前期比0.8ポイント悪化→)、仕入単価DI▲38.7(前期比21.3ポイント改善↑)、従業員DI35.5(前期比12.5ポイント人手不足感減少↓)。資金繰りDI0(前期比+0ポイント横ばい→)。

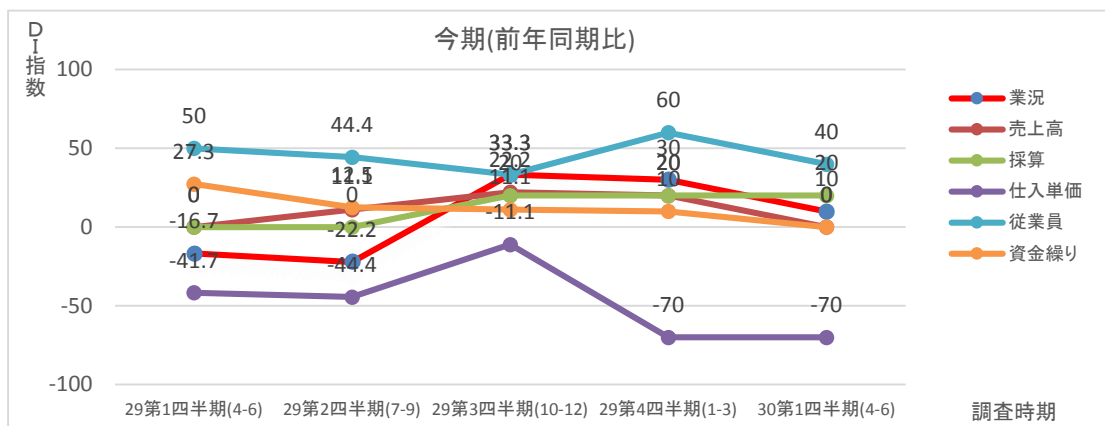
先行きの見通し(来期予測)の業況DI▲16.1(今期比12.9ポイント悪化↓)。売上高DI0(今期比9.7ポイント悪化↓)、採算DI▲19.4(今期比16.2ポイント悪化↓)、仕入単価DI▲35.5(今期比3.2ポイント改善↑)、従業員DI45.2(今期比9.7ポイント不足感増加↑)、資金繰りDI0(今期比+0横ばい→)となった。



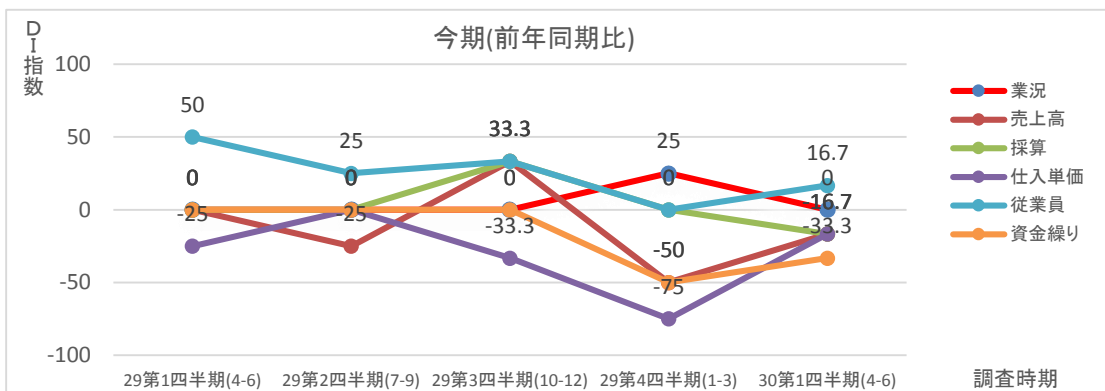
5. 業種別 (DI指数分析:前期比)

製造業は、業況20.0ポイント悪化↓。採算、仕入単価横ばい。従業員20.0ポイント人手不足感減少。売上高20.0ポイント、資金繰り10.1ポイント悪化。建設業は、業況25.0ポイント悪化↓。売上高33.3ポイント、資金繰り16.7ポイント、仕入単価58.3ポイント改善、採算16.7ポイント悪化。従業員16.7ポイント人手不足感増加。卸売業は、業況33.3ポイント改善↑。採算33.3ポイント、資金繰り33.3ポイント改善。売上高は横ばい。仕入単価-33.3ポイント悪化、従業員66.7ポイント人手不足感が増加。小売業は、業況16.7ポイント悪化↓。売上高33.3ポイント、採算3.3ポイント、仕入単価23.3ポイント改善。従業員6.7ポイント人手不足感減少。資金繰り20.0ポイント悪化、サービス業は、業況25.0ポイント悪化↓。売上高33.3ポイント、仕入単価16.7ポイント、資金繰り16.7ポイント改善。採算+-0横ばい、従業員12.5ポイント人手不足感減少。

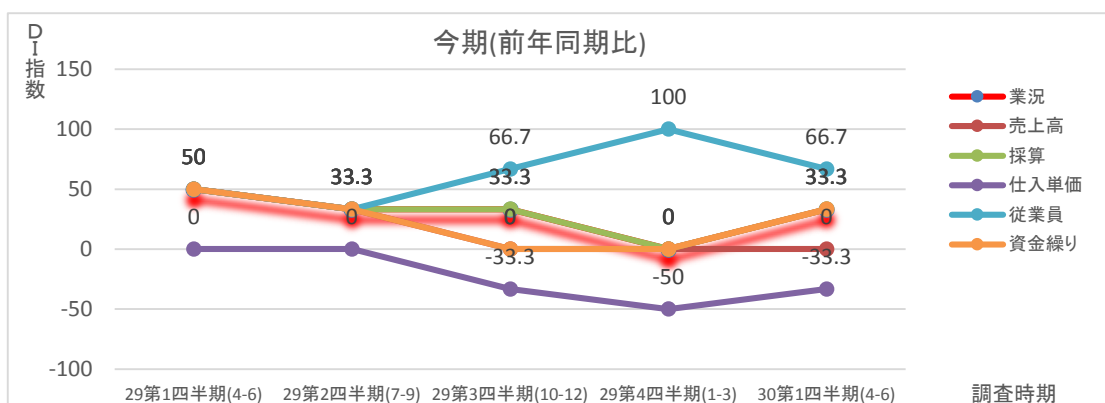
製造業



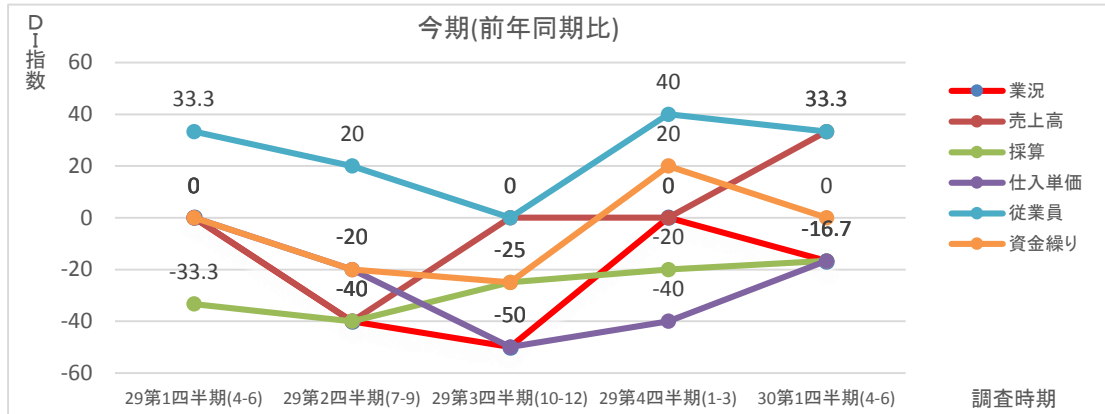
建設業



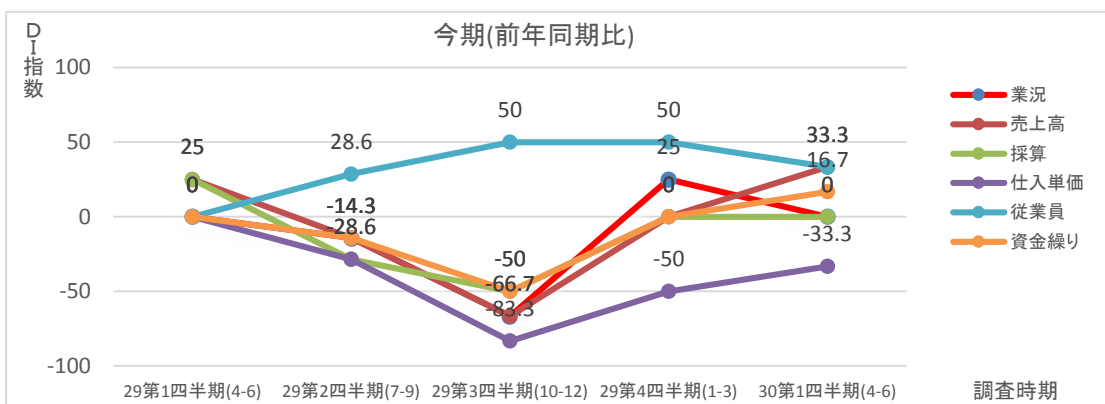
卸売業



小売業



サービス業



【業況感等コメント】

- ・ マクロ的には堅調な企業業績や設備投資など悪い材料は少ないものの地域格差や賃金の再配分の課題に加え、将来に対する不安感もあり、基本的にお金の循環が好転されていないように見受けられる。 **(製造業)**
- ・ 生産に関しては増減なく継続している状況であるが、製品の大型化への対応及び機会設備の老朽化、環境の整備を目的とした設備投資を実施する計画である。 **(製造業)**
- ・ 利益が減少している。競合他社の宣伝戦略により若い世代を中心に顧客が流失している。自社対応が難しい。流出したユーザーも結局は高く購入しているよう思われます。 **(サービス業)**
- ・ 原材料の大幅アップ、市況悪化の中での競合激化により利益率低下となっている。住宅着工件数の先細りに向けた対策が急務である。 **(製造業)**
- ・ 運賃、燃料、資材等の上昇にともなう影響が大きい。 **(製造業)**
- ・ 大工の人手不足から先行きの見通しが見つからない。若い人が収入面から就業したがらないので、何か助成や支援制度など国、県で施策を講じてもらいたい。 **(建設業)**